

ふち 縁に集う ～「もう一つの川越」の提案～

橋田スタジオ
22010186 佐藤 仁美

ISA
NU
MA

いざ、
ぬまへ

伊佐沼の「フチ」に集うための施設を計画し、
新たな3つの「縁」をつなぐ

計画の背景

都心から30kmの首都圏に位置するベッドタウンでありながら、豊かな歴史と文化を資源とした観光が有名な川越市。しかし人の賑わいを見せるのは限られたエリアであり、極端な人の流れが印象的である。そこで川越市は、北東に位置する伊佐沼周辺を農業や自然を資源とした観光地としていく方針である。しかしながら現在の伊佐沼の周辺は環境を活用しきれていない施設で利用者が限られている。また、伊佐沼は川越の主要な駅から少し離れて位置し、観光客が足を運びにくいこともその原因の一つである。この計画では、今ある施設の見直しを行い、川越市が推進しているシェアサイクリングを利用したアクセスの改善を念頭に置いた新たな施設計画を行う。

I. 川越中心街から伊佐沼までのアクセス



川越駅東口から伊佐沼まではバスで15分ほど。
公共交通機関での移動は手間がかかる。

II. 観光客の人の密度



日帰り旅行者が多く、一番街エリアから移動しやすいところに
集まる。あぐれっしゅ川越には無料駐車場の利用者が多い。

プランによる

改善ポイント

アクセスの悪さ

×

環境を活用しきれていない施設

×

駐車場の不足

伊佐沼の問題点

川越市 観光面の問題点

シェアサイクルを活用し、川越の観光に新たな選択肢を

バスよりもシェアサイクリングの方が滞在箇所が多いとされている。また、川越のシェアサイクリングの利用はR4年度は前年度から34.2%の大幅UP。川越駅から距離があるからこそ、伊佐沼をゴールではなく「ついでに立ち寄る」通過地点として位置づけることで、観光客の選択肢を増やすこと、地域住民の日常的な利用の両立を目指している。また、パークアンドライド駐車場の役割も果たすことで一番街エリアの混雑緩和にも繋げていきたい。

<アクセスの改善方法>

I：現在川越市が利用を推進しているシェアサイクリング（HELLO SYCLING）の拠点をつくる。

II：新たなバス停と駐車場の設置

III：沼を周遊するような建物配置をし、自転車や徒歩で楽しめる空間をつくる

場所に合わせたそれぞれの動線と視線計画



HARD CONCEPT

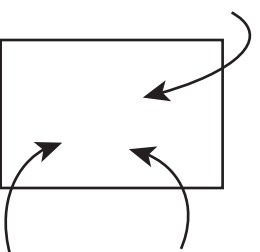
沼の静けさを活かす = 水平線

沼を抜けた視線の先に、景観を邪魔しない水平ラインを意識した外構。
静かな伊佐沼を楽しむため、建物の内外は視線のみで繋ぐ。

DIAGRAM

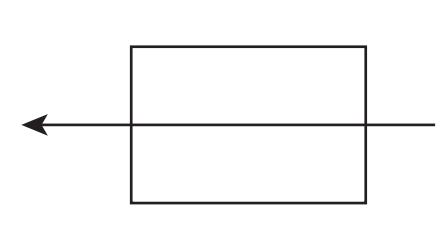
それぞれの動線

アズヌマ



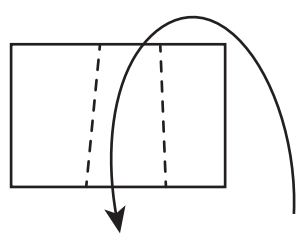
混ざる

ふちのカフェ



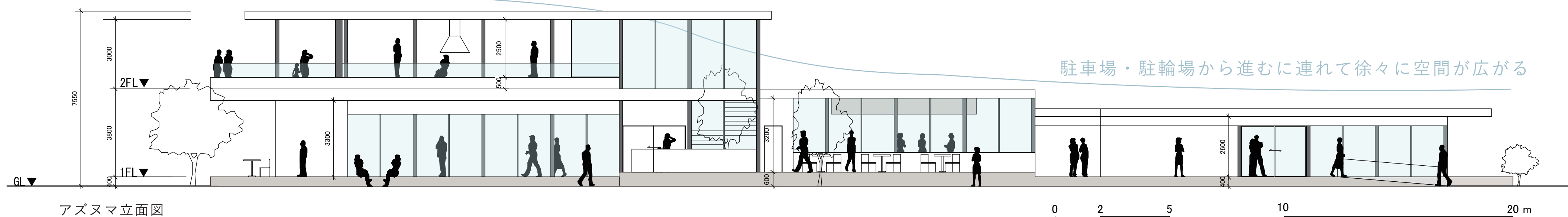
通る

イサヌマサイクルステーション



抜ける

沼まで距離がある分、沼全体を上から眺める空間

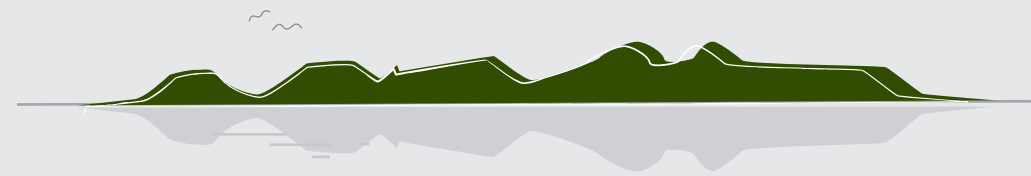


アズヌマ立面図

CONCEPT

もう一つの川越

地元の人+観光客を繋ぎ、自然になじむ施設を新たに計画。
蔵造りの街並み（一番街）とは異なる新たなイメージの川越をつくる。



伊佐沼の「フチ」からつなぐ3つの「縁」

1. 川越のエリア同士 : アクセスと過ごし方
2. 伊佐沼の周辺環境 : 環境に呼応した施設
3. 地域住民と観光客 : 空間での交わり方

伊佐沼を繋ぐ周辺計画

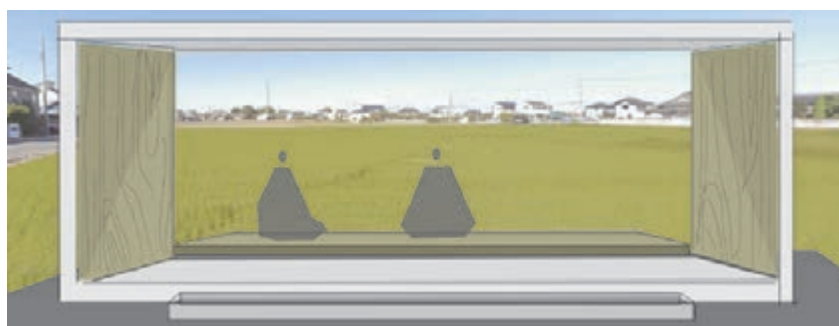
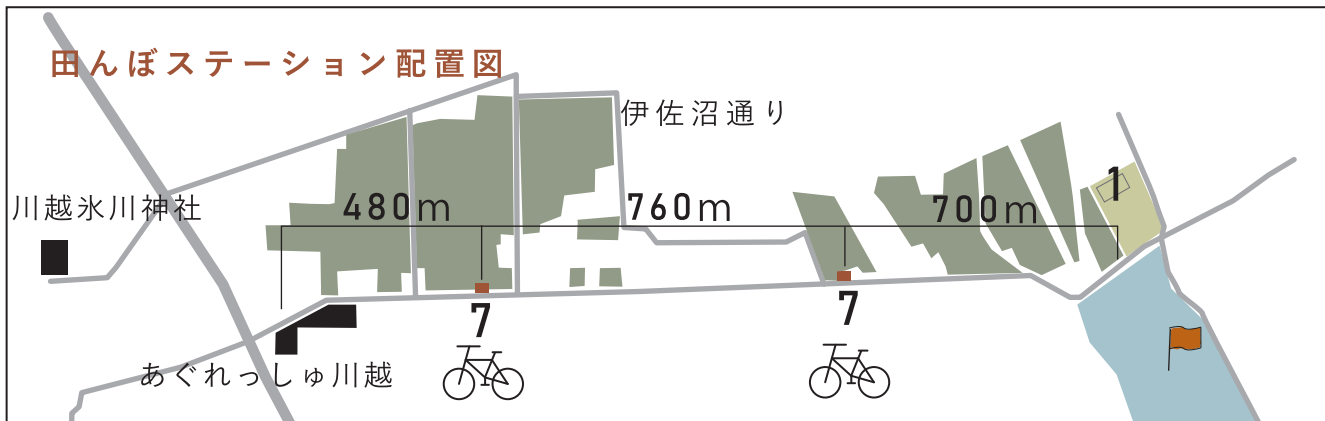
伊佐沼がつながりを持って自由に楽しめる施設を1から3の3つの建物を中心に計画。



伊佐沼周遊 MAP

- 1 アズヌマ
- 2 ふちのカフェ
- 3 イサヌマサイクルステーション
- 4 オートキャンプ場
- 5 バス停
- 6 イサヌマデッキ
- 7 田んぼステーション

<沼の大きさ>
南北：約800m
東西：約300m
<一周にかかる時間>
徒歩：30分
自転車：15分



7 | 田んぼステーション

民家と田んぼがまだらに集うエリア。
高齢者の方の散歩も多く、人々が集う
小さな東屋の存在になる。

駐車場・駐輪場から進むに連れて徐々に空間が広がる